

来るべき選挙の争点とマニフェストを菅選対副委員長に問う

6月5日に開かれた21世紀臨調・第7回政権
選択選挙準備フォーラムに

経済同友会から金丸恭文副代表幹事が参加した。

ゲストとして招かれた自民党の

菅義偉選挙対策副委員長に

選挙の争点とその対策、マニフェストや党改革

政界の行方などについて質疑応答を行った。

第7回「総選挙の争点と自民党のマニフェスト・選挙戦略」(6月5日開催)
～菅義偉・自民党選対副委員長に問う～

ゲスト

菅義偉(自民党選挙対策副委員長・衆議院議員)

登壇者

(順不同・敬称略)

質問役

茂木 友三郎(21世紀臨調共同代表・キッコーマン会長)

曾根 泰教(21世紀臨調主査・慶應義塾大学教授)

金丸 恭文(経済同友会副代表幹事・フューチャーアーキテクト会長)

兼司会進行

飯尾 潤(21世紀臨調主査・政策研究大学院大学教授)

将来に向けた日本のビジョンをマニフェストに示すことが大切



自民党のマニフェストはこれから
詳細を詰めていく段階なので、本日は
衆議院議員としての私見を述べたい
と思う。

今回の総選挙は政権交代が問われる
といわれるが、私自身はその前に、
日本という国をもう一度原点から考
え直し、21世紀の日本のビジョンを
示した上で、有権者に審判してもら

う必要があると考える。かつて、池田
内閣が示した「国民所得倍増計画」の
ように、未来に希望を持って国民が
共感できる大きなビジョンが必要だ
ろう。もちろん、自民党のマニフェ
ストには、将来に向けたこの国のあり方
を明示し、その中で各課題について
の政策を語りかけたいと考えている。

さらに、これまで日本を世界第2
位の経済大国にしてきた実績を踏ま
え、責任ある政権担当能力とは何か
を有権者に訴えかけていきたい。麻
生政権が発足して以来、世界同時不
況を乗り越えるために積極的な経済
対策を行ってきたが、今後はこの荒
波を越えた先に見える、日本の姿を
描いていく必要がある。補正予算で

力を入れた環境対策なども、そうし
た将来のあるべき国の姿や産業の一
つである。また、年金や医療の社会保
障も重要だが、もっと大きなイメー
ジとして、日米欧を主軸にしながら、
アジアとともに発展する日本という
視点も大切だろう。

責任ある政権政党として、政策の
優先順位や財源的な裏づけなどもマ
ニフェストに示していくつもりだ。例
えば、地方を元気にする意味で地方
分権は今後の大きな課題だと思う。
麻生総理は「地方政府」という言葉を
初めて使い、地方分権の実現に組み
入れているが、私も道州制の導入なども
見据えてしっかりと議論を行い、有権
者に提示するべきだと考えている。

金丸副代表幹事 質疑応答

Q 最近では「景気底打ち」という意見もあるが、それが事実なら「100年に一度の経済危機」という表現は妥当でないと考える。現在の経済状況についてはどのように認識しているか。

A 危機に対して何もしなければ、まさに「100年に一度」という最悪の事態になったと受け止めている。事実、輸出関連の落ち込み方はまさに深刻だった。麻生内閣ではわずか8カ月の間に4つの予算を成立させ、世界各国と歩調を合わせながら景気の底割れを防いできた。最近では株価も若干持ち直し、その効果がようやく表れ始めているのだと思う。

Q 菅議員は、経済対策などを優先して選挙を先延ばしすべきというお考えだが、来年7月には参議院選挙が控えていて、負けた場合は参議院選挙の準備期間が短くなることになる。衆議院と参議院の選挙戦略をセットにして考えているのか。また、選挙後の政界の展望についてどのように考えているのか。

A 今は、衆議院の選挙に勝つことがすべてで、ここに全力を尽くす。有権者の審判によってどのような形になろうとも、いわゆる「ねじれ現象」の政府は世界にたくさんあり、日本でもそのルールというものが出来上がるのだと思う。個人的には総選挙で自民党が勝利し、民主党が割れると考えている。その際の旗印となるのは、やはり「分権」ではないか。超党派で「せんたく議連」が発足しているが、地域主権型の国づくりをめぐる政界の再編が起こる可能性があると考えている。

